

■ 土をつかむ細根・根毛が多いから

根を比べてみると、元気ハクサイの根は、土をいっぱいつかんでいるのがわかります。これは、細根・根毛がたくさんあって活動しているからです。もう一方は、白い根が土中に伸びているのがよく見えますが、細根・根毛は発達していません。細根や根毛は養分をバランスよく吸収して、じょうぶな体をつくり、おいしい生産物を生み出す主役です。



土壌硬度計で測ってみると

どうして差がつくのか、硬度計で測定してみると、右の表に示すように元気ハクサイ畑に比べて、軟腐病ハクサイ畑は、ひじょうに硬い土であることがわかります。とくに、深さ 15cm ほどまでが、数値が 2 倍、3 倍にもなっていました。土が硬いのは、水や空気の入るすき間がないことの表われで、雨が少ないとカチカチに乾いて水不足となり、降るとベタベタになって酸素不足になり、これではデリケートな細根や根毛が伸びることができません。

土壌硬度に大きな差 (1 株について 3 カ所の平均)

深さ	元気ハクサイ畑	軟腐病ハクサイ畑
5cm	4	14
10cm	8	17
15cm	10	19
20cm	15	18
25cm	17	18

ですから、堆肥施用の目的と効果の第一は、土をやわらかく軽くすること、つまり水の入る小さめのすき間と、空気の入るやや大きめのすき間をふやして、根がよく伸び活動する環境をつくってやること、すなわち「物理性の改善」です。

■ 変身ハクサイで、洋風のサラダや蒸し煮を楽しむ

根づくりによって、甘くおいしいハクサイができると、食卓が楽しくなります。茨城白菜栽培組合では、専用品種を使って冬の寒さにあわせて糖度を高める「霜降り白菜」をオリジナル商品としていますが、これはちょっとおしゃれなサラダで食べることをすすめて喜ばれています。また、ベーコンと重ねて蒸し煮し簡単に味つけするだけで、まろやかな味の洋風料理ミルフィーユができます。



ハクサイの甘さを活かして洋風のミルフィーユ (左)、電子レンジにちょっとかけて生ハムやカッテージチーズなどとサラダに (右)



糖度が 8 度以上あって甘い「霜降り白菜」